OUT THERE Itoshima
志摩園だより

2017. 1.31発行
社会福祉法人
志摩会
第54号

福岡県糸島市志摩久家2527番地の2
TEL092-328-2121
E-mail shimakai@proof.ocn.ne.jp
http://www.shimaen.or.jp

特別養護老人ホーム志摩園
ショートステイ
デイサービス
ケアプラン
配食サービス

小規模多機能型居宅介護

糸島市志摩地域包括支援センター

地域貢献：オレンジ志縁隊・げんき志縁隊・せいかつ志縁隊、たまり場岐志・桜野・姫島茶所、おこもりカフェ岐志浜

感　謝

支え、支えられて、私たちが在る
しあわせに気づきます

東京オリンピックの先に見えるもの

理事長　黒澤　明

日の出輝く、暖かな年明けに体はリラックスできました。

一方、この４月から全面施行される社会福祉法人制度改革への対応は過去の延長線上のそれでは通用しないことばかりです。新たにやらなければならないことが多すぎて、何から手を付けていくか…。ここは制度が決まった以上、優先順位をつける必要があります。

キーワードは「生産性の向上」と「規模の拡大」。福祉や介護の世界には無縁のように思っていました。

社会福祉法人は、生産性を向上させた結果が規模の拡大につながる姿が普通だと思います。従って、本法人も生産性の向上、即ち法人の内部統制をしっかり構築することが先決だと考えています。

今回の改革で、２つの内部統制が求められています。一つは厚労省令のもので、これは全ての社会福祉法人が作り直す、新しい定款の中に書かれているものです。あと一つは日本公認会計士の内部統制で、一定規模以上の法人が対象のものです。

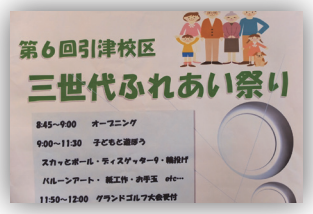
「社会福祉法人の事業はリスクだらけ」という話は大袈裟で無いと実感もするし、だから『社会福祉法人が安定した事業運営、永続的な発展、地域社会への貢献といったそれぞれの法人の目的を達成するために、達成を阻害する事象の発生確率を低減したり、または阻害する事象が発生した場合のマイナスの影響を最小限にとどめるために組織が構築した仕組み』（セミナー資料より）が有効に働く組織にならなければなりません。

ここで一つの結論が出ます。内部統制システムを作るのも、それを使っていくものも人でありますので、行き着くところは人を育てる、組織人教育ができる法人になることです。

「全社的内部統制とは、経営者のものの見方と考え方であり、経営者そのものである」という言葉を重く受け止めています。

この制度改革によって社会福祉法人は守られたと理解すべき面もあります。但し、その利益を享受するには並大抵な頑張りでも及ばないかもしれませんが、行動しなければ始りません。

10/23 祭り志縁隊の活躍



志摩会の事業所がある両校区の地域行事に参加させていただき、志縁隊も応援に　…

年々、バラエティに富む出店が増え、見て、買って、食べて、挑戦して、参加して、一人ひとりが楽しめた一日になりました

少し寒くなりましたが、雨もあがり、午後からの多世代でチーム編成のグランドゴルフ大会もおおいに盛り上がりました

小春日和に恵まれた

11/5 たからんたま志摩収穫祭

師吉区子供会、糸島市青年団、民生委員、志摩の輪他、個人ボランティアの皆様、ご協力ありがとうございました

6月にみんなで手植えしたひのひかりも

人気の射的は早々に1等を当てられ…

志摩園の皆さんもお出かけです

11/11 介護の日

『他人事じゃないですよね、認知症って！　あなたの
もう一歩を　もっと自分らしくありたい私のために』

認知症市民公開講座

一般市民の皆様向けの認知症早期発見・早期対応支援テキストを使い、認知症の基礎的理解から、自分が当事者になったり、気にる方がおられるときに、どう行動したらよいかなどわかりやすく説明戴きました。

講師：小笠原浩一先生
（東北福祉大学教授・
日本介護経営学会副会長）

引津公民館大研修室

受講者の感想

◆今までで最も丁寧でわかりやすかったです。認知症は記憶障害だけでなく、感情問題もあることがよくわかりました

◆認知症の早期気づきが大切だとわかりました

◆身近な体験を元に比較しながら聞きました先生の話を聞いて思い当たることがありました。ありがとう

◆貴重な講演ありがとうございました。話を聞いて家族の顔が浮かびました。気づいてあげれる人になりたいです

先を見通せて介護できる安心、皆様ありがとうございました。

玄海原発から30㎞圏内

平成28年度福岡県原子力防災訓練に参加して　（10月10日）

福岡県の原子力防災訓練に志摩園が参加したのは、平成24年の第1回目に続いて、今回が2度目になります。前回と違う点は2点、ひとつは志摩園を離れ広域避難するときに、直接避難先施設に向かうのではなく、中継施設を経由することになった点、、もう一つは中継施設で被ばく検査、簡易除染を受けることになったことです。

☆**避難先施設、中継施設～**　平成26年に福岡県と福岡県老人福祉施設協議会（県老施協）は、高齢者施設等が豪雨、洪水、地震、津波等で被災あるいはそのおそれがあるときは、県と老施協は協力して、応援する協定を結びました。原子力災害については、糸島市の原子力災害避難個別計画にも前記内容を踏まえ、志摩園に30㎞圏外に避難指示が発令されれば、志摩園の入所者（定員130名）全員を分散受入れ協力いただける特養（避難先施設）5施設と避難途中の渋滞時等に休憩や車両乗換場所として中継施設も複数確保されています。

《社会福祉施設広域避難訓練の概要》

避難元施設
特別養護老人ホーム志摩園

・入所者（職員代役）　4名
・介助・看護職員　1名
・運転者　1名

志摩園の車両1台を使って、市外の同じ種別の施設に避難

→ 約20㎞

中継施設
介護老人福祉施設松生園
（福岡市西区）

・志摩園からの避難者（介助者含）は避難退域時検査（・簡易除染）を受ける
・その後松生園による入所者の健康状況の確認、避難者の受入
・みどり苑に避難者の引継ぎ

→ 約35㎞

避難先施設
特別養護老人ホームみどり苑
（古賀市）

・みどり苑の車両1台がスタッフと共に松生園に向かう
・志摩園の避難者は松生園にて、みどり苑車両に乗り換え、みどり苑に向かう
・みどり苑到着後、入所者の健康状況を確認、避難者の受入

ドキュメント

当日は、公式訓練の開始前に志摩園の事業継続計画（BCP）にある原子力災害編に基づき、糸島市から屋内退避準備指示があり、次に屋内退避指示に進んだことを想定した訓練を独自に加え、実施しました。（写真は、午前8時35分、市から屋内退避準備指示後の全館非常放送中の光景）

10:20　公式訓練開始

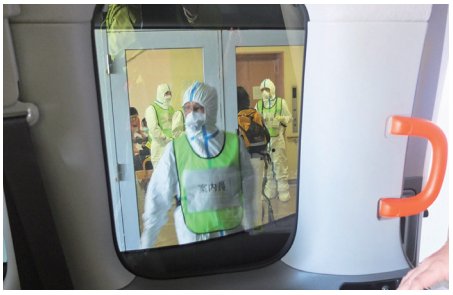
糸島市から一時移転指示を受け、全館非常放送

避難準備の整った入所者から集合場所の玄関ホールに誘導されます

10:30 志摩園避難車両まで移動

10:38 ⇒ **11:17**

中継施設（松生園）に向け、志摩園を出発



⇒

松生園到着。関係機関による放射線汚染がないか、検査を受け、全員汚染なしの想定で松生園に受入されました

11:47 ⇒ **12:10** ⇒ **13:03** **避難先に到着**

松生園からみどり苑に避難者が引継がれ、みどり苑車両に移乗。（松生園で、水分補給、トイレ休憩）

みどり苑に向け、松生園を出発

みどり苑に到着。避難者の健康状況の確認後、受入を完了

13:27 **訓練終了**

みどり苑並び松生園の皆様、ありがとうございました

志摩園に帰園後、訓練振り返りミーティング

- 中継施設まで約50分の車いす座乗だったが、腰は痛くなった。中継施設で水分補給やトイレ休憩もでき、心身の負担は軽減できた。
- 避難退域時検査は、白い防護服とマスク着用で係員の表情が見えず、不安に感じた。

社会福祉法人志摩会の防災関連計画等

1.事業継続計画（BCP）

BCPで想定する重大被害は、大規模地震、風水害、火災、食中毒、新型インフルエンザ、原子力事故の6つの緊急事態への対応としています（一部未完成の部分あり）。

2.特別養護老人ホーム志摩園の原子力災害避難計画

平成26年10月1日制定

第1章総則、第2章原子力災害事前対策、第3章原子力災害応急対策の三章立てです。

OPEN

おこもりカフェ岐志浜

おこもりカフェ岐志浜は、向こう3ヶ月ごとの　“週替り”
メニューを用意して皆様のご来店をお待ちしています

カキ小屋がオープンして岐志浜が再びにぎやかになる頃、
おこもりカフェも開店一周年を迎えました。

福岡交響サクソフォン四重奏団のご出演

ナマ音で聴く
サックス、ステキ
です

第25回　（11/5）

一周年を記念して
コンサートで幕開け！

奏者も観客も皆さん
がノリに乗った演奏とセンス溢れる選曲で大感動でした

第26回　（11/19）

友納様による読み聞か
せ、紙芝居の週替りメニ
ューに皆様集中しました

第27回　（12/3）

ボランティアの猿渡様、丸
山様に教えて頂き、折り紙
で新年干支の酉の飾りを
つくりました。

第28回　（12/17）

昔ながらの餅つきに声かけ
あって皆さん三々五々集合

第29回

（1/7）

今年初めの
カフェは七草
粥で体の養生
です

五臼をつきあげ
ました

この日は東北福祉大学から
カフェコーディネーターや
市民ボランティアの皆様に
運営の聴き取り調査も行わ
れました

今日は白あん、きな粉、大根お
ろしなどをお供に茶話会です

連載企画

いろんな職種から見た 介護の仕事（第11回）

職員リレー

志摩会に働く170人余りの職員の皆さんに仕事や職場、仲間への思いなどを語ってもらっています …

皆さんに支えられ、助け合いながらお仕事も順調に出来ています

濱地
（ショートステイ）

◆志摩会に入職して5年目になります。その前は、歯科助手を約20年間しておりましたが、急に閉院することになり、次は介護の仕事をやってみたいと思いました。
◆父がお世話になっていた病院の職員の方々の父や家族に接する態度、仕事中の姿を見ていて「これだ！」と思いをもっていたのが動機です。
◆ショートステイのご利用者は日々変わりますので、お名前から身体状況、お好みのことなど覚えるのは大変ですが、「ありがとう」、「よーしてくれるけんうれしか」等のお言葉を戴いたり、満面の笑顔をされると介護の仕事でよかったーと思います。
◆趣味は書道で、今も教室に通っています。将来は自分でも教室を開きたいと思います。また、セラピューテック・ケアの受講も6ヶ月間が修了し、セラピストも目指しています。

子供も成人し、今からは夫婦お互い元気でできるだけ長く仕事が続けられたらいいな

大神
（特養　調理員）

◆1ヶ月半の調理員としてお声をかけて頂き、料理は嫌いではないけど、厨房の仕事は全く経験がなかったので不安でした。
◆その後再び調理員のお誘いを受け、今でも覚えているのは〇〇さんの代わりですと自己紹介していたら、その方はベテランの調理員の方だと後で分かり、恥ずかしかったこと。
◆志摩園は食数が多く、食事形態も6種類程あり、メニューによって仕事の流れも変わります。配膳も間違えないよう気を付けています。
◆家ではマイペースで家事をしますが、入職して6年たち、状況を判断して仕事ができるようになりました。残食が少ない時は嬉しくなります。
◆楽しみは高校時代からの友達とランチを食べながらのおしゃべり。卒業してからずっと続いています。最近はもっぱら病気や健康に関係する話題が多くなった気がします。

ご家族の思い、ご利用者の状態にあったサービスの提供を心掛けています

寺田
（特養　介護福祉士）

◆介護保険制度のスタートと同時に在宅サービス事業所や施設等で介護の仕事に携わってきました。私自身も現在両親を在宅介護をしながら、パートとして志摩園で働かせて頂いています。
◆日々の仕事中は安心して安全に生活できる事を目標に頑張っています。誕生会、レクレーションには、特に力を入れご利用者のいつもと違った発見に気づく事があり、その後の生活で役に立てたりしています。ご利用者にはできる事は協力して頂けるよう声掛けして、残存機能を活用して生活リハビリ等を行っています。
◆その過程で変化が見られ、思わず、「今日はすごく頑張りましたね」と誉めたりすると ニヤリ とされますと多分私もニヤリ としている気がします。
◆休日は三姉妹と姪で“食べ放題”で腹ごしらえの後、カラオケで楽しくやっています。

Info

昨年11月6日、博多区のパピヨン24で開催された“ふくおか介護フェスタ2016”（主催は福岡県）の認知症介護事例発表の部で志摩園の西田介護福祉士が見事、金賞を受賞。

今回の受賞を糧とし、「利用者の心を支える」ケアの実践にさらに取り組みます

12月17日　パナソニックシステムネットワークスユニオン様志摩園訪問

閊達な行動力、そのスマートさは私たちのお手本です。

12月21日　福岡雙葉中学校吹奏楽部の皆様と交流…唱歌からクリスマスソングの演奏やコーラスまで心の安らぐひと時を有難うございました。手作りで丁寧なメッセージカードに皆さん釘づけです。

【編集後記】　昨秋トルコから娘と孫二人が二度目の一時帰国してきました。上の孫娘の七五三と下の孫娘のお食い初めを兼ねての約一月余りの滞在でした。

2年前に出国したときは孫娘は一人でありましたが二人に増えました。日本に里帰りせず、イスタンブールで生まれた孫で、私も初対面です。まあ、我が国の出産事情とは随分勝手が違うようで、入院は出産当日の一日だけで、翌日には自宅に帰ってきたようです（但し、娘の希望でした）。主治医はトルコ人の先生で、英語も交えてのコミュニケーションで「なんとかなった」とは娘談。

家に戻ってからは夫君が育児（？）休暇を取って、何かと手伝ってくれたおかげで生活リズムのたてなおしに早い段階でスムーズにできたみたいです。

これって、現在の日本がめざす、理想の出産・子育てを地でいっているようなものだと思いました。“共助”の出番が少なくても「何とかした」わけですから。

現地の幼稚園に通い始めた孫も、日本人の先生はいないけれどそれなりに楽しんでいるようで、片言のトルコ語で子供同士のコミュニケーションもそれなりで成り立っている様子。孫の話の中で、“ヒヨコマメ”というのを何度か聞いて（私はヒヨコマメが何だか知りませんでした）、それって何？と尋ねたら、幼稚園で食べているとのこと。美味しい？というと「…（無言）」でした。ネットで調べると確かにトルコ原産。偶然、数日後の新聞にひよこ豆入りの料理の紹介記事を見つけ、なんでも、昨年は国連が決めた「国際マメ年」だったとか。何時かひよこ豆料理を食べてみましょう。それに7月に起きたクーデターは、夜中にジェット戦闘機の爆音が何度も交錯するし、夜が明けると街中を戦車が通るはで、かなり怖かったようです。

まあ日本にいる間くらいは、のんびり楽しめ！とばかりに泊りがけ旅行に日帰り行楽から買物、食事や友人との再会など却って忙しくなったかもしれませんが、充実した時間になっていたなら親として嬉しい限りです。帰国後の寂しさはありますが、適度な孫疲れに浸りつつ、次の帰国を楽しみに、また仕事もがんばらないといかん！と気合を入れました。

（A・K）